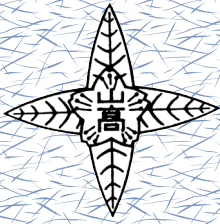


第81号

編集・発行 学校図書部  
日本大学山形高等学校  
図書委員会

発行日  
令和8年2月18日

(株)大風印刷



日大山形

# 図書館報



## 自主創造の羅針盤

令和九年四月始動！ 未来を灯す

「知識・交流・発信」の拠点

事務局長兼経理長 佐々木 吉信

生徒の皆さん、こんにちは。ただ今、日大山形高校は新校舎建築を中心としたキャンパス整備の真最中です。そこで、今回は新しい学びの拠点となる図書室についてご紹介いたします。

新校舎は令和九年二月に完成し、備品を搬入した後、四月一日から使用を開始します。この新校舎の象徴となるのが、一階から二階へとつながる広大な「情報・活動拠点」です。一階の図書室・司書室と桜華ラウンジ、二階の視聴覚室を垂直的・視覚的に一体化させることで、本校の学びを決定的に変える新たな心臓部が誕生します。

この拠点の設計思想は、生徒一人ひとりの「自主創造」の精神を最大限に引き出すことにあります。従来の高校では、学習空間、交流空間、発表空間が分散しがちでした。しかし、新校舎では、それら全てを敷地中央という最も重要な場所に集約することで、皆さんの活動をシームレスにつなぎます。

最大のキーワードは「活動の見える化」です。図書室での真剣な調べもの、桜華ラウンジでの熱のこもったディスカッション、そして視聴覚室での成果発表、これらの活動が中央の拠点に集中し、廊下や外部からも自然と目に飛び込むことで、学びのプロセス全体が学校のエネルギーとなります。他者の努力や成果が、新たな興味や挑戦への刺激となり、生徒全体の学びの連鎖を生み出すことでしよう。

新しい図書室は、知の蓄積庫としての確かな役割(閲覧室・司書室・開架書庫)を担いつつも、その空間設計において飛躍的な進化を遂げます。それは、静けさの中で知識をインプットする「静の空間」と活発な交流の中で知識をアウトプットする「動の空間」を融合させる試みです。この二つの空間を繋ぐのが、桜華ラウンジとの間に設けられた吹き抜けとガラスパーテーションです。

二階の視聴覚室の学習スペースで資料を読み込む生徒は、ガラス越しに下の階の桜華ラウンジで議論する仲間の姿を捉える

ことができます。また、桜華ラウンジで活動する生徒は、隣接するフロアーに知識の源泉(図書室)があることを意識します。この視線と視線のつながりが、「インプット(知識の収集)」が「アウトプット(創造的な活動)」へと直結していることを示唆し、皆さんの学習意識をより実践的なものへと高めます。

自然光が満ちる開放的な空間デザインは、集中して学習できるキャレル席から、リラックサスして読書できるテーブル席まで、多様な選択肢を提供します。この空間は、皆さんの知的探究の安らぎの場となるはずですよ。

情報拠点の心臓部である、成長の場「桜華ラウンジ」は、まさに生徒の活動の熱量を測るバロメーターです。常時、図書室の機能と連携した閲覧スペースとして機能しますが、その本質は「交流と発信のステージ」にあります。調べ学習の成果をまとめるグループワーク、生徒会の企画会議、そして部活動の発表練習。様々な活動が、この開かれた場所で練り広げられます。

外部からも気軽に覗ける開かれた設計は、生徒に適度な緊張感と、自らの活動に対する責任感を与えます。イベント時には、外部と一体的な利用も可能となり、日大山形高校の活力を発信する拠点としての役割も担うこととなります。桜華ラウンジで磨かれた「表現力」と「協働力」こそが、皆さんが活躍するための確かな力となるはずですよ。

令和九年四月、日大山形高校は、この新しい情報拠点を中心に、新しい学びの歴史をスタートさせます。皆さんは、予測不能な未来を切り拓くための羅針盤を手に入れるでしょう。



図書室の完成イメージ図

# 私の読書道

第26回

## 読書について

教諭 首藤裕二  
(地歴・公民)

皆さんはどんなときに本を読みますか。私にとつての読書は娯楽としての意味合いが強いですが、大学時代や社会人になってからは、学術関係の本を読むことが多くなりましたが、自分的にはそれは読書ではなく、「勉強」です。読みたいから読むのではなく、読まなければならないから読んでいたに過ぎません。

純粹に読みたい本を片端から読んでいたのは高校生のときぐらいまででしょうか。小学生のときは「江戸川乱歩」、中学生のときは「松本清張」の推理小説を中心に好きな本をたくさん読みました。高校時代は部活と、片道一時間以上殺人的な満員電車で揺られる通学で体力をゴリゴリに削られていたので、アメリカンな内容の「赤川次郎」を読むことが多かったですね。主人公に感情移入しながらの疑似体験を楽しんでいました。

大学進学以降は、史学科を選んだこともあり、歴史関連の学術書を必要に迫られて読むことが増えましたが、その一方で時代小説にもハマりました。堅苦しい学術書に比べれば、歴史上の人物を描いた歴史小説は、多くが脚色された架空の物語でありながらも、大きな節目のできごと(結果)については、歴史上の事実に基づいていることが原則なので、物語を楽しみながら歴史の「勉強」にもなっていると思えたのです。やるべき勉強からの逃避行動だったという気もしますが。

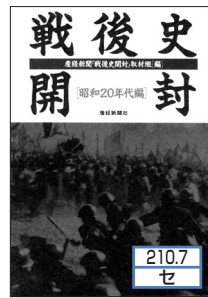
さて、教職についてからは、興味の厚薄によってやや不足気味の自覚があった分野の知識量を

補う「勉強」のため、本を読みました。歴史関連書籍、物語性は極めて薄いシンポジウム形式のものから専門家による論文形式のものまで、三十分も読んでいると暇が落ちてきてしまい、とても苦勞しました。ですが、その積み重ねがあつて知識量が増えたことで、さまざまな知識が関連付けられるようになり、内容がスツと入ってくるようになりました。おかげで最初の頃は「勉強」であつたものが「娯楽」の位置づけに近づいているように思います。

私にとつて娯楽であつた読書が、社会人になってからは勉強に分類される時期を経て、娯楽の一端に吸収されつつあるのが現状です。趣味と実益がほぼ一致していて良いのですが、自分としてはそろそろ「仕事」というフィルターをはずして、本当に読みたい本を読む生活に戻りたいと考えています。定年も近いですしね。

さて、最初の質問に戻りましょう。皆さんはどんなときに本を読みますか。純粹に自分の好きな本を読めるタイムミングは意外と短かった私の経験から踏まえると、皆さんには「今」使える時間を読書に充ててもらいたいと思つています。昔は紙媒体の本は大量に買い込むと保管場所に困る人も多かったのですが、現在はスマホで電子書籍を読む人も多いため、保管場所を気にせず本の読める環境を利用しない手はないでしょう。そして、常に手元に置いておきたいと思える本と巡り合えると良いですね。

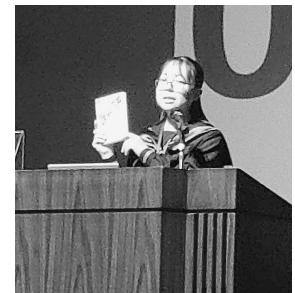
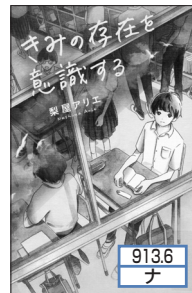
※このコーナーは、図書選定委員の先生方のリレー形式となっております。



## としよかんニュース

### ビブリオバトル県大会に出場!

一月二十五日(土)、山形市の遊学館ホールにて、全国高等学校ビブリオバトル山形県大会が開催されました。本校から、菊地祥さん(二年)が参加し、熱い語りで『きみの存在を意識する』を紹介しました。全国大会出場はできませんでしたが、会場の参加者や観戦者のみんなが、読書の魅力をかみしめ、良いひと時となりました。



### 読んだ感想を絵に描く

第三七回読書感想画中央コンクール村山支部審査にて、鈴木凜さん(二年)の作品が入選しました。物語に出てくる少女の考え方に、心を動かされた鈴木さん。この瞬間の幸せを残す道具であるカメラを描くのが難しく、どのように描いたら本を読んだ後の気持ちや伝わるのか、工夫して描いたそうです。来年度は皆さんも描いてみませんか。チャレンジをお待ちしています。



わたしの幸せはこの瞬間  
『やなやつ改造計画』  
吉野万理子 著

私の一冊



『アルジャーノンに花束を』 ダニエル・キイス 著

私は『アルジャーノンに花束を』を、ぜひ読んでほしい一冊としておすすめします。

知的障害を持つ青年チャーリーが、ある脳手術によって急激に知能を高めていく過程が日記形式で描かれていきます。賢くなる一方で、人の悪意や孤独、本当の優しさが少しずつわかっていき世界が広がっていきます。知性、幸せ、人間に大切なものは何なのかを教えてくれる作品です。



私は、今まで見えていなかった世界に気づいて、悩んだり苦しんだりしながらも、人間らしさを見つけていけるチャーリーに感心しました。読み終わった後も深い余韻が残り、誰かにすすめたくなる名作でした。

一年六組 高橋 杜昌

『ストロベリームーン』の続編で、恋人を失ってしまった日向と麗の高校生活を描いています。日向に振り向いてほしい麗ですが、日向の気持ちは揺るぎませんでした。

この小説は、静かな場面の中で感情が伝わってきて自然と物語に引き込まれます。冷たい月の描写が印象的で、物語全体に少し切なく落ち着いた雰囲気があります。幼馴染の二人がお互いを思いやる気持ちが心に響きます。日向と麗の迷いや不安が身近に感じられ、高校生の私達も共感しながら読むことが出来ます。落ち着いた物語が好きな人や読み終えた時に余韻を味わいたい人におすすめです。



芥川 なお 著

二年四組 山崎 楓香

『硝子の塔の殺人』

私がオススメする一冊は、『硝子の塔の殺人』だ。二〇二二年の本屋大賞にノミネートされた作品で、ミステリー小説好きには是非読んでほしい。物語は雪降る山奥に立つ円錐状のガラスの尖塔という、いかにもミステリー作品の舞台となりそうな館だ。そこに刑事や霊能力者、はたまた「名探偵」、そして医師の主人公など、多様な人物で構成されていく罪を暴かれたらしい、主人公遊馬のプロローグから始まる。どうやって疑いの目を逸らせるか苦しんでいたが、彼が犯人ではない事件が起こり……

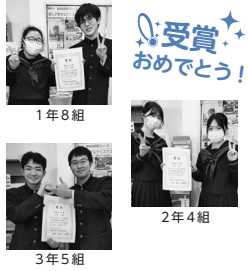


知念実希人 著

この作品の登場人物はミステリー作品に精通した者ばかりで、隙あらばミステリーの語が出てくる。実在する人物の名も出てくるので、あまりミステリー作品を読まない人にも、元々読む人で、言えることがあるとすれば、全ての謎が明らかになった時、より強い爽快感が得られるというところだけだ。

三年五組 今野 紡

決定! 多読クラス賞&ベストリーダー賞2025



- 〈令和7年度 多読クラス賞〉
- ★1学年1位 8組 2.1冊
  - ★2学年1位 4組 0.9冊
  - ★3学年1位 5組 1.8冊
- \*令和7年4月~12月までの貸出冊数÷クラス人数で集計。

- 〈令和7年度ベストリーダー賞〉
- コース別部門
- スポーツコース
- ★該当者なし
- 進学コース
- ★1位 M・Yさん(10冊)
  - ★2位 R・Gさん(9冊)
  - ★3位 K・Iさん(8冊) M・Yさん(8冊)
- 特進コース
- ★1位 C・Hさん(11冊)
  - ★2位 M・Sさん(7冊) K・Kさん(7冊)
- 学年別部門
- 1年生の部
- ◆1位 R・Cさん(46冊)
  - ◆2位 R・Mさん(28冊)
  - ◆3位 K・Tさん(16冊)
- 2年生の部
- ◆1位 A・Nさん(36冊)
  - ◆2位 R・Sさん(16冊) F・Kさん(16冊)
- 3年生の部
- ◆1位 R・Tさん(34冊)
  - ◆2位 T・Kさん(29冊)
  - ◆3位 M・Aさん(25冊)

\*コース部門は学年部門から選ばれた人が対象  
\*\*両部門とも、令和7年4月~令和8年1月までの個人の総貸出冊数で集計

仮設図書館ということもあり貸出平均冊数は少なかったですが、皆さんいろいろなジャンルの図書を借りていました。

年間図書貸出ベスト10

書名	著者名	請求番号
1位 『変な絵』	雨 穴	913.6 ウ
2位 『硝子の塔の殺人』	知念実希人	913.6 チ
3位 『架空犯』	東野 圭吾	913.6 ヒ
4位 『六人の嘘つきな大学生』	浅倉 秋成	913.6 ア
5位 『#真相をお話しします』	結城真一郎	913.6 コ
6位 『変な家2』	雨 穴	913.6 ウ
7位 『ストロベリームーン』	芥川 なお	913.6 ア
8位 『探偵はもう、死んでいる。11』	二語 十	913.6 ニ
9位 『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。Another』	汐見 夏衛	913.6 シ
10位 『月とアマリリス』	町田そのこ	913.6 マ

令和8年1月31日現在

この結果から、SNSで話題になった本や映画化された本、ミステリー小説が多く読まれているように感じました。また、過去に本屋大賞にノミネートされた本も多く読まれているようです。今後図書委員会で書店に行き、皆さんに読んでほしい本を選ぶ時は、以上のような本や話題になった著者の本などを多く選んでこようと思いました。他のジャンルにも興味を持ってもらえるよう、話題チェックをこまめに行っていきます！ (佐竹)

令和7年度 日本大学山形高等学校芸術鑑賞会 期日：令和7年6月20日(金) 於：山形市民会館

# Samurai Music ZI-PANG

## 芸術鑑賞会を通して

三年八組 佐藤 凜海

真夏のような暑さの中、今年度の芸術鑑賞会では、ZI-PANGによる和太鼓演奏を楽しみました。

ZI-PANGとは、日本だけでなく世界中で活躍している和太鼓奏者、林田ひろゆき氏をリーダーに和太鼓界の前線で活躍するソリストが集結したユニットです。日本の大きなイベントへの出演や、日本含め様々な国での公演を通して、国・世帯を超えた人々へ向け和太鼓の魅力を発信しています。個々の技術が高いのはもちろんのこと、グループ演奏ならではの迫力や音楽性溢れるステージパフォーマンスが魅力です。また、様々な和太鼓を活用して日本ならではの「和」を表現する演奏に加えて、グラス楽器や他の和楽器など多様な楽器の演奏者とのコラボ演奏は、斬新で、新しい音楽の世界を見たような感覚になります。

今回、芸術鑑賞会を通して和太鼓の世界に触れてみて、最初から最後まで止まることなく続く圧倒的なパフォーマンスに一瞬たりとも目を離すことができませんでした。どうしたらそんなに速く手を動かすことができるのだろうかと思議でたま

りません。各演奏者の個性が際立ち、ひとりひとりが全力で音楽に向き合う姿は耳だけでなく目でも楽しむことができました。今回の公演では、鐘や笛、キーボード、バイオリンと和太鼓の異色の組み合わせのコラボ演奏が行われ、「和」「洋」の域を超えた新たな音楽に心を動かされました。また、各クラス代表者による和太鼓の演奏体験も行われ、生のパフォーマンスを見るだけでなく実際に触れてみることで、さらに和太鼓の魅力を学ぶことができました。和太鼓の体験だけではなく、和太鼓に合わせて手拍子によるリズム演奏を会場全員で行いました。パート分けがあり、少し難しかったですが会場が一体となって行った演奏は非常に印象的でした。アンコール演奏があったりと、最後まで楽しかったです。



10月28日(火) 練習会第3回 リハーサル



5月29日(木) 練習会第1回 オリエンテーション



11月4日(火) 学童での本番



6月17日(火) 幼稚園での本番

## 令和7年度 図書館講座

～読み聞かせをしよう～

名、三年生二名)、秋の回には三名(二年生一名、三年生二名)であおぞら幼稚園と寺子屋あおぞらに行き、実際に園児や小学生の前に、読み聞かせを行いました。今回初めて参加した人もいれば、何回か参加している人もいて、絵本を通して園児や小学生とのコミュニケーションを楽しんだようです。

昨年度に引き続き、図書館講座を春と秋の二回開催しました。春と秋にそれぞれ三回あった練習会では、読みたい絵本を選んだ後、実際に絵本を持って読む練習をし、参加者同士でアドバイスをしながら、本番に向けて練習を重ねました。

## 講座後のアンケートより

◆絵本から自分で決めたり、読ませる年齢を考えたアドバイスをもったりして、自分の読むスキルなどが上がった感じがよかった。(一年女子)

◆私は小学校の先生になりたいと考えているので、小学生と関わっている職員の方の様子にも着目しながら、読み聞かせをすることができました。(二年女子)

◆実際に園児の子を前にして読むと焦りで心の余裕がなくなってしまうのが速くなってきました。(二年女子)

◆本はでかい方が良い。起承転結大事に。転から始まるのも良い。(二年男子)

◆絵本への興味もあり、最初に本の概要を少しだけ話すと盛り上がり良かった。終わった後は園児たちとハイタッチしたりと少しだけ交流もできて楽しいと思った。(二年男子)

◆ある女の子に「とっても楽しかった。また来てね。」と言われたことがとても達成感があり、嬉しかったです。私は保育関係の大学を志望しているので今回の経験を機に保育というものについてより深く学べたらいいなと思いました。(二年女子)

# 図書委員会活動報告

活動目標 ● 図書通信を通して図書館の利用者を増やす  
キャッチフレーズ ● スマホを開いて、本を開こう！

本の在り方



前期委員長  
三年六組  
横倉 沙耶

図書委員会として活動する中で、本は知識を得るためだけでなく、人の考え方や想像力を広げてくれる存在だと感じました。桜華祭での古本市や館内のレイアウト改善など、試行錯誤を重ね、より良い空間にできたのは協力してくれた皆さんのおかげです。本を読むことは娯楽であると同時に、物語を記憶しながら読み進めたり、文章から情景や登場人物の心情を想像したりすることで、自然と記憶力や思考力を養うことができます。その価値を実感できるのが図書館だと思います。図書館が静かに勉強する場所であるだけではなく、自分の世界を広げるきっかけとなる場所になれば嬉しいです。これからも気軽に図書館を利用してください。

## 仮設図書館 レポート2025

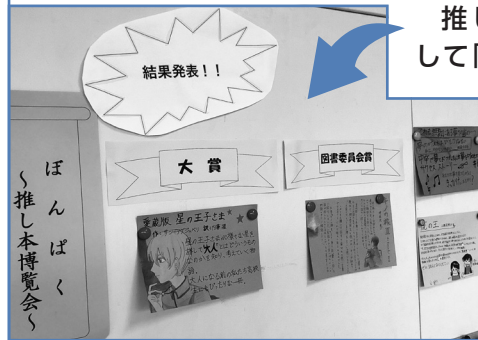
4月から本格的に仮設図書館がオープンしました。仮設ながら新しい企画も盛りだくさんでしたよ！

### レポートその1 マスコットキャラクター



図書委員(前期)が考えて、図書委員(後期)が名付けたマスコットキャラクターが本校図書館史上初めて誕生しました。大きくてかわいいピンク色のラブリーと、博士のブックマです。ライブラリーを縮めて「ラブリー」、ブックマスターを縮めて「ブックマ」です。

### レポートその2 ぼんぱく



推し本博覧会略して「ぼんぱく」は、ポップを募集し、桜華祭の古本市来場者による投票で大賞が決定しました。

### レポートその3 ぶっくじ・図書みくじ

☆7月期末考査後から8月まで、貸し出した本1冊につき1枚の抽選券を配り、当選番号を発表し、景品をプレゼントしました。初めての景品付きくじびきでした。

☆読書週間中は、図書館利用者や通行人(!)におみくじを引いてもらいました。運勢やラッキー本が書いてあり、くじを引いた人も楽しんでいましたよ。



### レポートその4 廊下



廊下にも本校関連の新聞記事の切り抜きや生徒作品などがたくさん！

### レポートその5 掲示板

6号館1階の掲示板には、本日の開館時間も表示しています。



# ライブラリーフォト ~図書館・図書委員この1年~



10組	9組	8組	7組	6組	5組	4組	3組	2組	1組	1年生
小池 一真	高橋 栄由	伊藤 愛	安部 緋里(前)	田中 恵大	柏倉みすず	多勢 純平	赤間 友紀	佐藤 咲依	大槻 凌平	漆山 阜臥
松本 優和	矢作 橙子	結城 要人	鈴木 愛(後)	高橋 杜昌	深瀬 菘丞	大松 凜美	高橋 樹	小室 風我	佐藤 桜祐	

1年生代表		2年生代表		3年生代表	
1年3組	高橋 樹	2年8組	武田 陽稀	3年5組	加藤 秋月
2年3組	鈴木 成偉	2年5組	會田 紗也	3年7組	伊藤 翔秀
2年8組	鈴木 成偉	2年8組	武田 陽稀	3年9組	村山結衣香
2年5組	佐竹 祇音	2年5組	會田 陽稀	3年3組	梅津 伶未
2年8組	武田 陽稀	2年8組	武田 陽稀	3年3組	伊藤 翔秀
2年5組	會田 紗也	2年5組	武田 陽稀	3年7組	加藤 秋月
2年8組	武田 陽稀	2年8組	武田 陽稀	3年5組	横倉 沙耶

## 令和7年度 図書委員会

◇図書館開館時間◇

平日  
▶ 8:00 ~ 19:00

授業のある土曜日  
▶ 8:00 ~ 17:00

家庭学習日の土曜日  
▶ 8:00 ~ 13:00

※日曜・祝日は休館です

6号館1階廊下の掲示板に「本日の開館時間」を表示しています

10組	9組	8組	7組	6組	5組	4組	3組	2組	1組	3年生
加藤 信誠	太田 鴻文(前)	村山結衣香	佐藤 凜海	齋藤 翔秀	伊藤 圭	町田 秋月	加藤 響生(前)	奥山 健太	黒澤 姫咲(前)	梅津 伶未
尾形 剛(後)	永井 芳昊	渡邊 果思	横倉 圭司	今野 沙耶	星 文登(後)	須藤 健琉	須藤 健琉	須藤 健琉	須藤 健琉	須藤 健琉

月々土曜日の6つの班があり、その班内でA(読書推進)、B(資料装備)、C(広報・データ)の3グループに分かれています。執行部を中心に利用しやすい図書館を目指し、日々活動しています。

### 編集後記

最近、母からある本をプレゼントされた。読み終わった本を譲ってくれたのだが、わりと楽しみながら読んだ。読書とは、まず読む本を決めねばならないが、本をもらったら、その高いハードルを難なくクリアできるのがいい。そして、贈ってくれた人がどんな気持ちで読んだかを想像して読み進めるのも楽しい。身近な人がすすめる本というだけでわくわくして読んでしまうこともある。この館報でも何冊か「おすすめの本」の紹介があるが、それらを読んでみるのもいいと思う。読書は、一人で本の世界に入っていく感覚があるが、その中にもう一人の存在が見えかくれする。たまにはそんな読書も楽しんでほしい。(小山)